

ネットワーク

発行日 平成19年11月1日
発行 白石地区ネットワーク会議
責任者 情報交流部会長 木村幸男
札幌市白石区本通1丁目南2-32
電話 860-1431



魅力あふれる 地域づくりに向けて

白石まちづくりセンター
所長 加藤博史

白石まちづくりセンターの加藤と申します。
日頃から白石地区連合町内会の皆様をはじめ、
地区内の様々な団体の皆様には、本市の行政に
対してご理解とご協力をいただき、心からお礼
申し上げます。

すでにご存じのとおり、平成16年3月8日
に「白石地区ネットワーク会議」が設立され、
はや4年が経過しようとしています。

それまでも当地区内では、単位町内会を基
礎として活発な地域活動を展開されてこられた
ところではありますが、複雑化、多様化する地域
における課題により積極的に取り組まなければ
ならないという時代の要請を踏まえ、同会議設
立の運びとなったところです。

安全・安心なまちづくり、暮らしよいまちづ
くり、快適性の高いまちづくり、こどもからお
年寄りまでだれでも参加できるまちづくり等々、
どれも地域で生活する上で大切で重要な社会・
環境要素ではないでしょうか。

そうした地域づくりをみんなの手で実現して
いこうというのが同会議の設立趣旨だと思っ
ています。

いま、私たちを取り巻く社会環境は決して楽
観できるものではありません。

このような状況の中で、地域で暮らす一人ひ

とりが連帯し、各種団体相互が連携・協力関係
を築き、地域一丸となってひとつひとつの課題
と向き合い、さらなる地域力の向上が図られる
のであれば、必ずや「魅力あふれる地域」へと
変貌することが可能となるものと確信していま
す。

わが白石地区は明治4年に開拓の鍬が入れら
れ、先人の苦勞の礎の積み重ねのうえに今日の
街の発展があります。

そうした先人たちの心を引き継ぎ、未来を担
う子どもたちへ胸を張ってバトンを繋いでいた
だきたいものです。



▶ 情報交流部会

【白石の歴史を学ぶ講座】テレビ放映について

部会長 木村 幸男

今年度の事業の第2弾で「白石の歴史を学ぶ講座」を6月20～21日2日間、会場はふれあいプラザで実施、講師は白石の歴史を語る会、会員の鈴木祥寛さんです。

参加者、延べ55名1日目は、【歴史しるべ】最初に立ち寄ったのが、ふれあいプラザ敷地に設置されている「白石中央墓地跡」宮城県白石から「墓地開設」の嘆願書を提出、明治4年以來白石村墓地として、約100年続き墓地の歴史を閉じた。

次に白石小学校の校庭に設置されている「佐藤孝郷」顕彰碑です。明治5年当時白石に学問所を開いたその名を寺子屋(善俗堂)と名づけた。



「白石村のはじまり」講義風景

このあと、会場に戻り2日目は【白石村のはじまり】について講話があり、HTBテレビ局が2ヶ所と会場での風景を取材、平成19年7月14日(土)午前7時15分テレビ放映となり大いにPRとなりました。

最後に2日間ではありましたが、白石村の礎を築いた、先人たちの隠されていた偉業に参加者の皆さんも感動された事とおもいます。



「佐藤孝郷」顕彰碑の前で説明風景

▶ 防災防犯・生活安全部会合同研修会
ルールを守り自己防衛

部長 田畑 實

去る9月20日、白石会館に於いて、交通安全防火防災研修会が、連町及びネットワーク会議共催で開催され、参加人員95名の満席状態となり、その関心の高さを示してくれました。

毎日、新聞・テレビで交通事故や人命軽視による事件が報道されていますが、私達は身近での出来事には関心を示しますがあまりにも発生数が多すぎて慢性化していませんか、残念ながら避けて通れない近代社会が生み出した現実なのです。

しかし座しては身を守る事は望めません。自己防衛で「事故に遭わない」「他人の人にも遭わせない」その気配りを常に持つべきと考えます。

「一線を越えてはならない」という言葉がありますが、皆さんいかに解釈しますか。

それぞれ状況に応じ当然異なると思います、では道路や駅のホームに表示されている線内は誰でも知っている安全地帯で、又注意喚起を促す線でもあります。

車の運転、道路横断時のその線上での状況確認、すなわち「危険予知」が出来るものです。

最近の事故は、歩行者や自転車による交通事故が多く発生し、何れもルールを守らない結果です。教訓としましょう。



白石警察署・防止対策の説明

▶ 青少年女性部会

「通学パトロール隊」の活動

①防犯協会から表彰 ②札幌アシストセンターの取材
 部会長 齊藤美代子

6月28日に開催されました平成19年札幌白石防犯協会の定期総会におきまして、青少年女性部会の主要事業である「通学パトロール隊」の活動が「防犯功労団体」として表彰されました。

この表彰は平成16年の6月にスタートし、あしかけ4年目に入りました「通学パトロール隊」を支えてくれている70数名の協力員に対する表彰であると共に、この活動を側面からバックアップしてくれている多くの団体への表彰と理解しています。



札幌白石防犯協会からの表彰状

6月下旬、区役所地域振興課まちづくり推進係を通して、札幌市子どもアシストセンターから「通学パトロール隊」の活動に対する取材申込みがありました。

7月13日、区役所地域振興課和田係長、青少年育成委員会担当の林さんと一緒に札幌アシストセンターの中村弥恵さんが取材に訪れ、白石小学校の「通学パトロール隊」に同行して校区内の通学路、付近の公園を回りました。この日は青パト（青色回転灯装備車）3台と白石中央交番の警察官も同行しました。

「通学パトロール隊」では、9月末現在青パト4台を登録しています。最終的には対象とな

る5校（西白石、白石、南白石、南郷、本通）に1台ずつ配置したいと考えています。

次の文は「あしすと」19号（平成19年8月）に載った一部です。

地域の子どもは地域で守る！！

白石地区ネットワーク会議
「通学パトロール隊」

今から3年前、平成16年6月に白石地区ネットワーク会議青少年女性部会（白石地区青少年育成委員会が中心になって構成）が「通学パトロール隊」を結成しました。この「通学パトロール隊」は本紙の第10号（平成16年7月発行）で紹介しています。今回はパトロールに参加し、現在の活動を見せていただいています。

平成19年7月上旬、白石区内の小学校の下校時、「あっ、オレンジマンだ！」「パトロールだ！」と子どもたちの声が聞こえてきました。そこにはオレンジ色のベストと帽子に身を包んだ「通学パトロール隊」の姿がありました。

現在「通学パトロール隊」は地区内の小学校の下校時に合わせて定期的にパトロールしています。

公園で遊んでいるランドセル姿の子どもたちには、「一度家に帰ってから、また公園において。」自転車に乗っている子どもたちには、「もう少しゆっくり走ろうね。気をつけるんだよ。」などと一人ひとりに声を掛けていました。

時には遠くから「オレンジマンだ！」と手を振る子どももいて「通学パトロール隊」は、すっかり親しみある存在になっていました。



「あしすと」10号（平成16年）と19号（平成19年）

▶ 体育振興部会

「第4回いきいき健康まつり」

部会長 坪田 敏男

9月2日(日)、白石小学校の体育館を会場に第4回「いきいき健康まつり」が開催されました。主催は白石地区ネットワーク会議体育振興部会と白石地区連合町内会体育部です。

4回目を迎えた今年も、300名以上の白石地区に住む老若男女が集まり、秋の一日心地よい汗を流しました。

開会式終了後、80歳を超えてもかくしゃくとしている金子雄さん（中央スポーツ振興会会長）が軽やかな足取りでステージに上がり、ストレッチ体操を指導しました。

次にこれも恒例になっている「白石元気体操」で体を馴染らした後、「白石歴しるべウォーキング」の参加者は、「白石の歴史を語る会会員」の鈴木祥覚さんらに引率されて出発しました。

体育館では体力測定のコナーに長蛇の列ができ、「身長・体重・体脂肪・握力・閉眼・垂直・全身」の各コナーでは係の指示に従い、真剣に取り組んでいました。

その他、昔遊びコナーやテニポン・ミニバレーの体験コナーなどがあり、参加者全員で健康クイズを行なった後、閉会式で終了しました。

今年も昨年に引き続き、実行委員会方式を取りました。4つのスポーツ団体、23の単位町内会、青少年育成委員会、交通安全実践会などの団体の方々に大変お世話になりました。



昔遊び竹馬に興ずる子供たち

行事予定

平成19年

11/15(木) 白石地区社会福祉合同研修会

内容「メタボリック症候群と食事について」

白石会館

主催 白石地区連合町内会・白石地区ネットワーク会議

白石区民生委員児童委員・白石地区社会福祉協議会

11/15(木) 白石区タウントーク 区民センター

*あなたの街で市長と語ろう

11/18(日) 白石区青少年育成委員会

【全委員研修会・情報交換会】 アサヒビール園

11/21(水) 交通安全街頭啓発（南郷ブロック）

アサヒビール園前

12/3(月) 民生委員・児童委員委嘱状伝達式

区民センター

12/20(木) 白石地区連合町内会定例会・納会

白石会館

平成20年

1/7(月) 白石区新年互礼会 札幌フローラ

1/14(月祝日) 白石区成人の日行事

札幌コンベンションセンター

2/11(水) 新春子ども百人一首大会 白石会館

編集後記

創刊号に引き続き、第2号を発刊することが出来ました。

これからは白石地区ネットワーク会議の活動の他に、各種団体の情報等を皆さんに紹介し、地域の状況をより知っていただくためにも、今後とも一層のご協力ご支援をお願いいたします。

情報交流部会一同